

第2回環境計画管理部会以降に委員から寄せられた主な意見及び意見に対する県の考え方について
 (第4次山形県環境計画【中間見直し版】)

番号	意見等の内容	県の考え方
全体・概要		
1	施策の展開方向である6つの柱について、人材確保や再エネ導入、森林吸収源対策など、中身に重複が多い。	本計画では、持続可能な社会を創りけん引していくには「人づくり」が全ての基盤であるとの考えに基づき、全体に共通する施策として「人づくり」を位置づけています。また、環境問題が複合化しており、それぞれの施策の柱における課題が重複する部分もあることから、施策によっては再掲となる取組みもある状況です。引き続き各柱の目標達成に向けた施策についてしっかりと取り組んでいきたいと考えております。
2	施策の各柱の「目指す将来像」について、施策の柱6はわかりやすいが、他の柱は概念的な文言が多く、分かりづらいため、より具体的にイメージしやすい表現にできないか。	本計画は、令和3年からの10年計画であり、今回は中間見直しであることから、原則、当初設定した将来像を目指して取組みを進めてまいりたいと考えております。 次期計画策定の際には、わかりやすい表現になるよう努めてまいります。
3	全体的に専門用語が多い。	できるだけ専門用語を使わずに記載を行うとともに、専門用語につきましては、用語集を整備いたしました。
4	「2050年カーボンニュートラル実現」に向けては、温室効果ガス排出量実施ゼロを達成するには、この計画期間中にどこまで進める必要があるのかわかりにくい。	計画本文の「第2章目標」中に達成イメージを掲載しております。
施策の柱1		
5	柱1の1の3つ目の◎には「学校におけるESDの推進」とあるが、2には「SDGs学習会等を通じた…」とあり、用語を統一してはどうか。	施策の展開方向1では全体的な内容を記載し、2では、より具体的な表現(取組み)に落とし込んで記載をすることで使い分けております。
6	柱1の4「パートナーシップの充実・強化」について、教育界の巻き込みが弱いと思われる。教育委員会との連携を強化する必要がある。	計画の目標達成状況を踏まえて連携を強化しながら進めていきたいと考えております。
7	環境教育について、大学生になってから興味を持つのは難しいので、小学生や中学生のうちから、環境への興味関心を高める取組みが大事である。	引き続き環境教育の機会の充実など、小学生や中学生のうちから、環境への興味関心を高める取組みを実施してまいります。
8	「ウェルビーイング」について、国の第6次環境基本計画から出た概念である点を明記したほうが分かりやすい。	コラムにおいて、その旨を記載いたしました。
9	「県民総ぐるみ」という表現は現実的ではなく、重要なのは「担い手」の存在であり、それをより強調すべき。また、「担い手」について、学校や家庭の話は出てくるが、産業における担い手の視点が抜けている。産業を含めた多様な担い手を支援することが重要であり、グリーン成長やGXをもっと計画に盛り込むべき。	計画本文中「第2章1(3)6つの施策の柱」及び「第3章施策の柱1【課題】」において、人づくり(担い手)の重要性について記載をしているところです。また、産業における担い手の支援及びグリーン成長やGXにつきましては、計画本文中「第3章施策の柱2【施策の展開方向】」に盛り込みました。

第2回環境計画管理部会以降に委員から寄せられた主な意見及び意見に対する県の考え方について
(第4次山形県環境計画【中間見直し版】)

番号	意見等の内容	県の考え方
10	施策の柱1などで「行動変容」という言葉が出てくるが、非常に難しい問題であり、関心を持っていない方にどのような手法で問題意識を持ってもらうのか検討いただきたい。	関心を持っていない方にも問題意識を持ってもらえるように、ライフステージや場面に応じた具体の環境教育・環境学習の取組みの中でアプローチ手法を検討してまいります。
11	目の前の課題に対して「大人への教育」も重要。コラムすべてが学校教育、若い世代なので、他の世代の事の記載があれば良い。	コラムに地域で活動する団体の取組みについても記載いたしました。
12	「ウェルビーイング」という言葉の解説が必要である。	コラムにおいて、ウェルビーイングの解説を行いました。
13	全体的に「和暦」よりも「西暦」で記載された方が分かりやすい。	できる限り併記いたしました。
14	「地球温暖化による気候変動がもたらしている自然災害や食糧難、最近の熊の出没といった課題を解決するためにも、脱炭素社会を目指す必要がある」といったことを記載してはどうか。	脱炭素社会を目指す必要性については、計画本文の「第1章1はじめに」に記載しました。
15	環境問題を自分事と捉えるため、県民総ぐるみでの取組みは重要と記載があり、具体的な取組みはこれからだと思いが、全体的に今までの取組みを継続する印象がある。一歩進んだ取組み、目新しい取組みも進めていかないと、ゴール達成が厳しくなるので、具体策を期待する。	県民総ぐるみでの取組みとして、カーボンニュートラルやまがた県民運動等の取組みを実施しているところであり、目標の進捗状況を把握し、引き続き各種施策を検討、見直ししながらより効果的な取組みが実施できるよう努めてまいります。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・ ESG投資の脚注は、欄外ですべて消去されているので、このページ(P.25)で説明が必要である。 ・ 脚注をつける単語の記述方法を統一したほうが良い。 ・ 計画書全体で、繰り返しの単語の下線部は不要である。 	御意見のとおり対応いたしました。
17	実際に活動されている方、活動に参加された方からの感想やそれによって変化した事例等をコメントと共に記載してはどうか。	コラムにおいて実際の活動内容を紹介してまいります。
18	列(世代)と行(項目)を入れ替えた方が分かりやすい。また、GX(グリーントランスフォーメーション)等の単語の具体的な説明も必要	レイアウトの都合上現状のままといたしました。専門用語については、脚注(初出ページ)で説明するとともに、用語集を整備いたしました。
19	インターネットやAI利用も促進してはいかがか。	具体の施策のなかでデジタルツールの活用について、引き続き検討を進めてまいります。
施策の柱2		
20	環境省が認定した脱炭素先行地域(米沢市・飯豊町)の紹介をしてはいかがか。	コラムに記載いたしました。
施策の柱3		
21	目指す将来の姿に「地域と共生した再エネの導入により地域振興が図られている」とあるが、私が関わっている自治体の現場では、再エネへの関心がまだ低い。自治体間の連携を深めていただき、課題意識を共有しながら進めていただきたい。	県では、県内4地域にエネルギー政策推進に係る地域協議会を設置し、情報や課題の共有を行っているところです。御指摘のとおり、自治体によって再エネへの関心度に差異がありますので、今後も丁寧な対応により各市町村との連携を深めてまいります。

第2回環境計画管理部会以降に委員から寄せられた主な意見及び意見に対する県の考え方について
 (第4次山形県環境計画【中間見直し版】)

番号	意見等の内容	県の考え方
22	(5)アのタイトル 再生可能エネルギーの供給基地化の「基地」の表現は、言葉のイメージが良くないとの指摘は以前からあるので、表現を変更すべき。この中間見直し時が良いのかを含めて検討ください。	「再生可能エネルギーの供給基地化」については、県エネルギー戦略において、目指すべき本県の姿の項目の一つとなっておりますので、「基地」という表現の変更については、県エネルギー戦略の見直しにおいて検討してまいります。
23	「レジリエンス」の意味を記載ください。	本計画では、災害等が発生した場合に、社会や個人が速やかにその状況に適応し、基本的な機能を元の状態まで回復・復元していく力という意味で使用しています。本文中にも注釈を追記しました。
施策の柱4		
24	「災害廃棄物処理計画の見直し」について、山形県は計画策定率自体は100%だが、水害や豪雨を想定した処理計画に限ると、50%程度である。本文中には豪雨や水害といった具体的な言葉を盛り込み、それに対応した見直しを行うという表現にしていきたい。	県では、近年の大規模水害を想定した災害廃棄物発生量の推計等により、県廃棄物処理計画の見直しを行い、それを踏まえて市町村計画の見直しを促して行きたいと考えております。なお、市町村計画の見直しにおいては、水害部分を中心としながらも、水害以外の部分も含め計画全体の点検・見直しが必要と考えておりますので、対象災害を限定しない記載にしたいと考えております。
25	施策の展開方向3において、3Rの施策3Rの推進だとしても意識が高い方は4R、5Rを実践しており、すでにZ世代では古着の活用、古着を修理、靴カバンの修理等の取り組みも聞く。全国一ごみの少ない県を目指すのであれば、一歩踏み込んだ記載も必要である。コラムに4Rや5Rの記載をしていただきたい。	「循環経済への移行に向けて」のコラム(P.58)に、「3Rの取組みから、不要なものを断る「Refuse」や、修理して長く使う「Repair」などの様々な「R」の取組みが派生している」旨を記載しました。
26	県民1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)の排出量に関する記述について、長期的には減少傾向となっていることはよいとして、全国水準と比べて上回っており、一層の削減努力が必要であることを書き加えるべきではないか。「全国一ごみの少ない県」を謳うのならば、現状を厳しく捉えて行くべきではないか。	現状(1)(P.54)に、「県民1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)の排出量は全国平均を上回っている」旨の記載を追加するとともに、課題(P.56)に、「ごみ削減に向けた取組みを強化する必要がある」旨の記載を追加しました。
27	資源循環の課題について、プラスチックや食品ロスの課題もあるが、今は衣類についても課題があるとの報道を耳にする。この点に触れてもよいのではないか。	施策の展開方向(1)イ(P.60)に、「衣類の資源回収等を推進する」旨の記載を追加しました。
28	あらゆる資源をリサイクルしていくのであれば、「ゴミ」でなく「資源」である意識付けも必要である。行動を変えるために意識を変える必要があることも課題である。「家庭から出るのはゴミでなく、資源であるという意識に変える取り組みが課題です。」などと付け加えてはどうか。	施策の展開方向(1)ア(P.59)に、「視点を変えれば、ごみも大切な資源となる」旨の記載を追加しました。
29	ウ 海洋漂流物等の回収及び発生抑制の促進について、諸外国からの漂流物もあるが、内地から流れ出るポイ捨てごみもあると思う。発生抑制の促進部分の施策の記載が少ないように思う。ボランティア頼みでなく、ポイ捨て防止、家回りのプラ用品の管理等の啓蒙活動等を記載してはどうか。	施策の展開方向(3)ウ(P.63)に、「県民1人ひとりが海岸漂着物等の発生抑制について理解を深められるよう、普及啓発と環境教育を実施する」旨の記載を追加しました。

第2回環境計画管理部会以降に委員から寄せられた主な意見及び意見に対する県の考え方について
 (第4次山形県環境計画【中間見直し版】)

番号	意見等の内容	県の考え方
施策の柱5		
30	柱5の「野生鳥獣の適正管理」については、クマに関する現状を踏まえ、駆除や担い手不足への対応など、もう一步踏み込んだ記載が必要ではないか。	柱5の【施策の展開方向】に追記しました。(P.76)
31	再生が必要なのは「オオシラビソ林」だけではないため、オオシラビソ林の後に「等」を加えてはどうか。	当該箇所は本文における樹氷復活に係る取組みの記述であるため、そのことがわかるよう概要版に文言を追記しました。なお、樹氷復活に係る再生の取組みはオオシラビソ林を対象とするため、「等」は付さないことといたします。
32	オオシラビソ林再生の目標が「植えて増やすこと」なのか、「以前の状態に戻すこと」なのか、明確にすべき。また、今回の中間見直しでどこまで達成しているべきなのかも示してほしい。	オオシラビソ林の再生については、以前の状態に近づけることを目指しておりますが、具体的な内容については、自然再生法に基づく事業実施計画を来年度策定予定であり、その中で検討することとしております。
33	クマの問題は県民の関心が高いので、素案の該当箇所にクマ対策が喫緊の課題であることや、緊急銃猟制度にかかる自治体の判断や責任に関する議論を記載すべき。また「山形県版クマ被害総合対策パッケージ」により取組みを進めていることも紹介してほしい。	柱5の【施策の展開方向】に追記しました。(P.76)

※施策・事業内容等に関する委員からの質問で、部会当日に回答しているものは除く。